

令和7年度第1回指宿市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

1 日 時 令和7年6月16日（月） 14:30～17:15

2 会 場 指宿市役所指宿庁舎3階 大会議室

3 参加者 井上 佳朗，三倉 康，宮崎 恵介，永谷 真純，今村 勝博，鳩野 浩一郎，別府 竜人，臼山 正二，内菌 清則，坂上 次喜，水流 美紀子，谷口 誠一，榊 登志幸，岡 良二，高田 俊一郎，川畑 哲郎，関山 智幸，竹下 真佳，渡部 徹也，鴨崎 一郎，富永 敏尚，窪田 幸一郎，岩林 茂樹，原村 誠，東 貴教

事務局：宮地 主税，豊崎 和也，大小田 直人，中林 惇仁

※欠席者 鳩野 浩一郎，内菌 清則，岡 良二，高田 俊一郎

4 議事要旨

【報 告】令和6年度における各交通モードの利用状況について

（以下，質問及び意見）

委 員 イッシーバス川尻～なのはな館線がかなり利用率が伸びているが，要因はなにか。

事務局 イッシーバス川尻～なのはな館線については，去年の4月から伸びてきている。競合する知林ヶ島～池田湖線について特にダイヤ改正等はなく，利用者がそちらから流れてきたとも考えづらいことから，純粹に利用者が増えていると考えられる。

委 員 路線バス回数券の利用金額と販売額の差については，どういった理由か。

事務局 2,000円で購入し，3,000円分を使用する部分の差と，購入されてから使用するまでのタイムラグ，いわゆるタンスの中に眠っていたものを使用することでの差が考えられる。

【議案第1号】令和6年度事業報告及び収支決算について（監査報告含む）

（質問及び意見なし）

≪議案可決≫

【議案第2号】令和7年度事業計画及び予算について

（以下，質問及び意見）

委員 P11に示されている(2)公共交通に関する出前講座等の開催について、自治会単位や公民館単位など、どういった単位での開催を想定されているか。

事務局 単一の自治会や校区公民館等のいわゆる連合自治会のような単位を想定している。また、高齢者サロン等を行っている組織もあるため、特定の組織にとらわれることなく、様々な組織を検討したい。高齢者をメインターゲットと想定しているため、高齢者の多く集まる組織での開催を検討している。

委員 出前講座はとても良い取り組みである。高齢者がメインターゲットになるのは仕方ないと思うが、バス・JR等は一般的に免許を持っていない人が乗るものだという考え方になりがち。そうではなく、免許を持っている方でも体験してみませんか？という取り組みは必要だと思う。免許を持っている方もバス・JR等を利用する選択肢として持ってもらえるような取り組みでもあって欲しいと考える。

会長 指宿市として、「エコ交通日」の取り組みは行っているか。

事務局 「エコ交通日」の取り組みは指宿市としては行っていないが、観光客向けの交通手段として、電動アシスト付き自転車の貸し出しを行うなどの取り組みを行っている。

事務局 出前講座に関連することとして、先日、地元高校生向けのJobツアーを指宿市で開催した。鹿児島交通さんにも参加していただき、職場の案内をしていただく過程で、バスの乗り方講座も盛り込んでいただき、バス通学をしていない生徒たちにもバスへの乗車を促すいいきっかけになったと考える。

《議案可決》

【議案第3号】令和8年度地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について

（質問及び意見なし）

事務局 先ほど説明させていただき、皆様のご審議をいただいた後、提出する流れとなるが、提出後、国土交通省とのすり合わせにおいて、微細な字句の修正等はあるかと思われる。お含みおきをいただきたい。

《議案可決》

【議案第4号】新たな公共交通体系について

(1) 指宿市の二次交通に関するアンケートについて

（以下、質問及び意見）

- 会 長 アンケートについては、観光向けのアンケートであり、地域住民の考えというのは必ずしも見えてこないという認識でいいか。
- 事務局 お見込みのとおり。今回のアンケートは、観光施設や宿泊施設に向けたアンケートとなっており、生活需要の交通に関する意見は含まれていないと考えている。
- 会 長 生活路線として使えないというものではないという認識で正しいか。
- 事務局 お見込みのとおり。観光地付近にお住まいの住民もいらっしゃる、現在の路線についても同様に、生活・観光双方の利用をされている方がいらっしゃいます。
- 委 員 新たな公共交通体系についてということで、令和6年10月に鹿児島交通からイッシーバスの見直しに関する要望があったようである。イッシーバスというのは、生活需要の路線として利用されていると思うが、今回のアンケートは宿泊施設等へのアンケートであり、観光交通を見直すことに付随して生活交通を見直すという方針ではないという認識でよろしいか。どちらにウェイトを置いた見直しを検討しているのか。
- 事務局 イッシーバスの見直しを基本として検討しており、それに付随して、観光客の交通手段が足りないという問題があるため、あくまでも生活路線の方にウェイトを置くという仕事の進め方になります。観光客に対するケアについては観光部局の方でも検討しなければならない部分でありますので、我々事務局としましては、生活路線の方を重点的に検討していく必要があると考えております。
- 事務局長 地域住民の方々の意見については、地域公共交通計画を策定する際にアンケートをとっている。その中では、もっとここを改善してほしいという意見はあったが、観光客向けの意見が不足していた。指宿の場合、観光客向けの配慮も必要であると考え、急遽アンケートを5月にとった。本日の資料ではアンケートのボリュームが大きくなっていることから、観光需要への傾きが大きくみられがちだが、生活・観光双方の部分でしっかりと検討していく。
- 委 員 指宿市の場合は、他の地域に比べて観光要素の強い地域であるため、どちらの視点にも立った検討というのが必要であると考え。先ほど事務局から、生活需要の方にウェイトを置いた検討を行うという回答があり、当然そうだと考えるが、当協議会に出席されている方々については、観光事業者の方々、地域住民の方々双方出席されている。指宿市の公共交通体系がより良いものとなるよう、活発なご意見をいただきたい。
- 委 員 観光客は交通手段が限られているため、二次交通を利用する頻度は高い。一方、住民については、一次交通、JRや鹿児島までのバスなどは利用すると思う。市内の移動は自家用車か他人に送ってもらうという考え方が根強い。その部分を切り替えていく必要があると考える。指宿

市の観光地は、市内に点在しているため、住民も利用できるはず。地元の人はいったん路線を理解しようとか、使ってみようかという考えが欠けているように感じる。このアンケートについては、観光に関するものになっているが、中身については十分、住民にも使えるような整備に活用できると考える。

会 長 かなり複雑な問題だと思う。観光客向けに特化した交通体系を整備して、住民が利用するのか、観光施設付近にどれだけの生活施設があるのかということも複合的に検討する必要があるが、長期的になるが、まちづくりの関係部署とも連携して誘導していくことも必要になるかもしれない。

(2) 指宿市地域公共交通活性化協議会分科会開催報告

(以下、質問及び意見)

委 員 事務局の説明に補足する。(6)西大山駅からの交通手段についての部分で、西大山駅は訪れる方が非常に多い場所ではあるが、JRが通っているにもかかわらず、JRを利用して訪れる方は少ない。先ほどの観光関係者向けのアンケートの中でもあったようなニーズに全て応えるのは難しいことだが、観光客向けの対応にはある程度戦略性を持たせることができると考える。誘導をして誘客に繋げるといった意味で議題に挙がっているもの。(8)自動運転についての部分は、自動運転が社会実装されるのはまだまだ先のことだと考えるが、まちづくりの観点で、指宿港海岸やその背後の緑地帯など、市街地に近い場所の整備が進んできているなか、まちづくりと二次交通を紐づける必要があると思う。(9)グリーンスローモビリティも同様。アトラクショナル要素が強いというのは、観光的戦略要素が絡んでいるかなと思う。

(3) 新たな公共交通体系の基本骨格（素案）について

(以下、質問及び意見)

委 員 一点補足する。P30のC案に記載のドライバーについては、中型1種免許を保有していることに併せて、ドライバーとして選任するためには国土交通大臣の認定を受けた講習を受けていることが必要となるため追加をお願いしたい。

会 長 事務局としては、示した案のどれかを本日、委員に選定してもらうということを考えているのか。

事務局 想定しているスケジュールとして、来年度にはイッシーバスの見直しが必要であるため、公共交通体系の整備が必要であると考えている。

必ずしも示した案で固めるわけではなく、本日は案の中で直すべき部分や付け足すべき部分などの付帯意見をいただければと考えている。また、あくまでも示した案は骨格であることから、今後、交通事業者や関係各所との調整を行い、具体化していく方針で検討している。併せて、令和8年度の予算関係もあるため、予算の規模感についても検討・協議していく必要があると考えている。

会 長 観光客・生活者へのメリット・デメリットが整理されていないように感じる。メリット・デメリットを踏まえたうえで、どのプランがふさわしいかというところを検討したいがどうか。

事務局 観光客に対するメリット・デメリットについては、AIオンデマンドを導入する場合は利用者登録が必要となる部分がデメリットとして挙げられる。定時定運行型のライドシェアにする場合はその手間は発生しないこととなる。地域住民が主に利用するAIオンデマンド平日型については、予約をする際には、電話・アプリによる予約が必要となることがこれまでと違う点。また、基本的にはドアtoドアではなく、他の自治体の例で言えば、ゴミステーションや医療機関、店舗を指定している。従って、今、乗合タクシーを導入している地域にAIオンデマンドを導入する場合、家から少し歩かないといけないということが発生することが想定される。

委 員 イッシーバスの見直しはもちろん行う必要があるが、既存交通の利用実績を基に考えた場合、1便あたりの利用実績が令和5年度に比べて令和6年度が伸びている実態がある。また、イッシーバスは決まった時刻に決まった場所を運行する定時定路線であり、1便あたり3.67人の利用者がいる。このような状況の中で、示された案に共通して予約型の乗合タクシーを導入することとなっている。これは日常使いで決まった時刻に決まった場所から乗り降りしていた方からすると、予約制の形態に切り替えることで影響が大きいような気がする。予約制の形態に切り替えるべきかどうか検討が必要かと思う。今後、実現可能性に向けた事業者などとの協議を検討されているということだが、どのプランを見ても予約制の形態への切り替えとなっているためタクシー業者さんへの負担が大きいのではという懸念がある。そこについてはタクシー事業者さんとしてどのようにお考えか疑問に感じた。

委 員 いずれにしても乗務員が必要だと感じている。現状から行くとなかなか増えていく方向にはなく、少ない乗務員で回していくための取り組みだと思っている。AIオンデマンドを導入するにあたっては、9

人乗り程度の車輛で、どのくらいの広さがカバーできるものなのか。

事務局 他の自治体へ聞き取りを行った結果、有効範囲は概ね15km²~20km²だと伺っている。指宿駅を中心とした場合、丹波・柳田校区くらいで、宮ヶ浜までカバーできるかは微妙な線かと考えている。

委員 示されている黄色い円だと広いと感じる。1台ではカバーしきれないのではと感じる。

事務局 補足させていただくと、AIオンデマンドシステムの中で、最終予約締切時間を設定できるようである。例えばエリアの端から端まで30分かかるとすると、最終予約締切時間が30分前というようなかたちで設定できると伺っている。

委員 AIオンデマンドはお金がかかると思うが、実証実験を行い、その後本格導入というような流れになるのか。一度始めたらシステム利用料はずっとかかるものなのか。

事務局 導入をすれば本格運行を行うのが基本だと考えるが、財源の話でいうと、国土交通省が令和7年度から令和9年度まで交通空白の緊急対策期間ということで取り組みをされている。その中で特別対策事業補助金というものがあり、システム導入、実証運行、車輛調達の費用等をメニューを組み合わせることで受けることができる。本市としても、AIオンデマンドを導入する場合は、補助金の活用も視野に入れた検討を行っていく予定としている。

委員 今ありましたように、国の方では、令和7年度から令和9年度を交通空白地対策の集中期間として解消に取り組むこととしている。国の補助事業については、交通空白緊急対策事業と共創モデル実証運行事業という2つのシステム導入に活用できる事業があり、現在2次募集中。指宿市の見直しを検討することを考えると、少なくとも今年度の募集には間に合わないと思われることから、次年度の補助メニューを活用して実証運行を行い、本格運行の軌道に乗せるという方針が良いと思われる。明確にこういった補助事業があるかという明言はできないが、活用できそうなメニューについては情報共有を行っていきたいと考えている。

会長 持続可能な財源の確保は必要不可欠。それぞれの案についてメリット・デメリットを整理すること、持続可能な財源確保のあてがあるかどうか、プランAからCを運用していくための人材の確保が事業所で可能なかどうか。こういったことを分科会の中で、詰めていく必

要がある。今この場で決定するのは困難だと思うが、事務局としてどうしていく方針か。

事務局長 本日は、事務局の中で検討している案として提案をさせていただいた。新しい公共交通の体系も入ってきているため、イメージし難い部分もあろうかと思う。今後、詳しいことについては分科会の方で、その分野の方々と議論を深めさせていただき、次の10月の会議までには、乗務員数の問題、生活・観光双方への対応などについて、ある一定の水準で運行していける案がお示しできるかと思っている。そこについては分科会の方にお任せいただければと考えている。

会 長 今日の事務局の説明については、現在の可能性についてご理解をいただき、その中で詰められるところは詰めて、見通しを持った状態で改めて10月に再提案いただくという方針でよろしいか。もしよろしければ、分科会を軸に詰めていただき、本日は可能性をご理解いただいたということにしたいと思う。

委 員 先行自治体の事例も取り入れてもらいながらでお願いしたい。

【6】指宿市版公共交通乗務員就職奨励制度について

(質問及び意見なし)

事務局 あくまでも事務局としてこういった制度を創設し、取り組んでまいりたいという素案であり、決定事項ではないことはご理解いただきたい。